

特集：矢作川環境誌としての枝下用水史

# 枝下用水の思い出

Memory of the Shidare Yousui

野原由佳

Yuka NOHARA

## 用水で泳ぐ

「子どもの頃、夏になると川でよく遊んだ」という話を聞いたり、川で水遊びをしている写真を本でよく見たりする。現在はプールなどの専用設備がそろい、川で遊ぶ子どもを見なくなった。では用水はどうだろう。川同様に水遊びをしていたのであろうか。

豊田土地改良区所蔵資料の中の、枝下用水土地改良区の用水の管理人が日々の仕事内容や用水の状況を記録した『通水日記』〈昭和35（1960）年度～41（1966）年度〉（表1）の記事を見てみよう。そこには、「青木小学校及び南中学校に行き、水泳シーズンが来たので子供がよく放水門を廻すので其の事を注意して戴く様に校長先生にお願いをした」〈昭和35（1960）年7月5日〉、「小坂町婦人会にて子供の為用水の危険物を取り除く為に午前2時30分より断水す」〈昭和36（1961）年4月27日〉、「今日も暑いので第二放水門附近にて子供が大勢水泳をして居るので其の附近に居て放水門をいじらない様に注意を促した」〈昭和36（1961）年7月23日〉、「学校指定の水泳場が上原地区迄に8箇所ある」〈昭和37（1962）年8月8日〉等の記事が見つかる。婦人会の方が子どもたちの水泳に関する取りまとめを行っていること、管理人が児童の水泳中に用水を巡回し、放水門を触らないよう注意・監視をしていること、枝下用水を学校指定の水泳場に行っていることなどが書かれており、昭和40年代前半までは、枝下用水は子どもにとって矢作川同様に水遊びのできる場所であったことがわかる。

昭和30年代の話であれば、まだ当時の話を聞くことができるだろう。枝下用水で泳いでいたという方を探し、話を聞くことができた。豊田市越戸町在住のKさん（昭和11年生まれ・用水幹線）によると、昭和26（1951）年の中学3年生のとき、猿投南部中学校（現猿投台中学校）で、校内クラス別水泳大会が枝下用水で開催された。

1学年3クラスあり、6～7人のクラス代表によるリレーだったという（図1）。自習の時間になると、夏は海水パンツに履き替えて枝下用水に泳ぎに行った。次の授業に間に合わず、海水パンツのまま校庭を5周走らされたこともあった。下校途中に枝下用水で泳いでから帰ってきたこともあった。矢作川も枝下用水も子供にとっては遊び場であり、今となっては楽しい思い出だと語った<sup>1)</sup>。豊田市平戸橋町在住のYさん（昭和17年生まれ・幹線）は、小中学校時に泳いだ記憶がある。矢作川で水害が多発したため、矢作川での水泳が禁止になり、枝下用水で泳ぐようになったのだという。用水は流れが早いので、親が監視していたという<sup>2)</sup>。

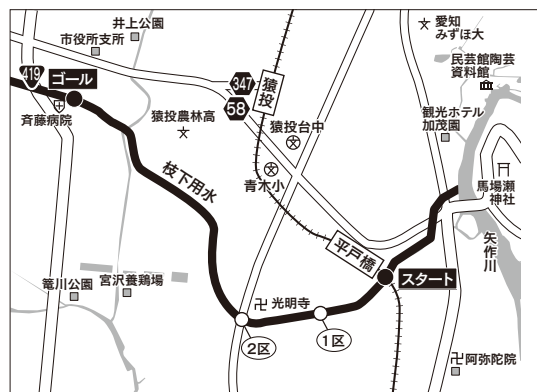


図1 猿投南部中学校校内クラス別水泳大会のコース。

豊田市井上町在住のHさん（昭和22年生まれ・幹線）は、昭和35（1960）年の中学2年生のときに見ノロプールが出来て、矢作川に行ってはいけないということになった。それまで「新川」（＝枝下用水）は本格的に遊ぶ場で、矢作川と共に子ども会の親が当番になって監視小屋で様子を見ていた。流されていく子どもを止める「流れ止めテープ」も用水に張ってあった。用水の深さは120～30センチ。野イチゴを摘みながら流されて遊

表1 『通水日記』〈昭和35(1960)～41(1966)年度〉.

| 年  | 日付   | 天候    | 気温  | 風向               | 事務処理の概要  | 備考(本文)   |
|----|------|-------|-----|------------------|--|--|
| 1  | 1960 | 7月5日  |     |                  | 青木小学校及び南中学校に行き、水泳のシーズンが来たので子供がよく放水門を廻すので其の事を注意して載く様に校長先生に御願ひをした。   | 本事務所和田氏より用水に異状の有無を問わる 別に異状無しと答ふ。                                 |
| 2  | 1960 | 7月27日 |     |                  | 花本の第二放水門附近が子供の水泳場にて度々放水門を少し開くので時間を見て毎日見に行く。  | 台風が接近してきたが未だ判らない。  |
| 3  | 1960 | 7月28日 |     |                  | 水泳シーズンにて第二放水門を開くので今日も行き見て締めて来た。  |  |
| 4  | 1960 | 7月29日 |     |                  | 日曜にて今日も花本の第二放水門を見に行き子供に放水門にさわると注意をした。  |  |
| 5  | 1960 | 8月2日  |     |                  | 水量が少なくなったので花本の放水門迄見に行った。子供が大勢で水泳をして居た。放水門にふれるでないと注意して来た。   | 夜間夕立が来る。   |
| 6  | 1961 | 4月27日 |     |                  | 上原地区迄用水に付いて下る。<br>正后頃深谷氏より電話あり午後4時入水しても良いと連絡ありたり。其の様に処置す。  | 小阪町婦人会にて子供の水泳の為用水の危険物を取り除く為に午前2時30分より断水す。柴町住宅下の用水に杭があり取り去る。      |
| 7  | 1961 | 7月22日 |     |                  | 用水に付いて四郷地区迄行く。子供が水泳をし放水門をなぶるのでよく注意をした。現場に居る内はよいがそこを去ると又直ぐになぶるので又注意をした。   | 水量が減りつゝあり噸数は4.5米でも通水量は少し減って居る。                                   |
| 8  | 1961 | 7月23日 |     |                  | 今日も暑いので第二放水門附近にて子供が大勢水泳をして居るので其の附近に居て放水門をいじらない様に注意を促した。  | 日照続きにて少し水量が減じた様に思ふ。  |
| 9  | 1961 | 8月3日  |     |                  | 上原の区長様より用水にて子供が水泳中金鋼を張るとの事にて教育委員会より金鋼位出してもよいとの事にて区長はそんな事とは用水ゆるさんと申されたそうが明日の委員会にてよく検出するとの事である。私の所に電話あり。私も無論そんな事はして載てはいけないと申上げた。                                       |  |
| 10 | 1961 | 8月8日  |     |                  | 本日も用水に付いて上原地区迄下り、第二放水門が少し開いてあったのでよく締めて又山田健治氏に逢ひ橋梁の件に支払いの有無を問かる。深谷氏に連絡して其の由を御伝へす。   | 子供が水泳の為遊んで居ては放水門を開く様に思ふ。   |
| 11 | 1961 | 8月13日 |     |                  | 花本地区の放水門附近の子供の水泳状況を見に行った。年少の子供が30人位遊んだり水泳をしたりして居た。放水門になぶらない様にと注意をして来た。   |  |
| 12 | 1962 | 7月19日 |     |                  |  | 地元の婦人会から県道の上流下流が水泳場であるので用水の水量が多いと県道の橋が通過できないのでその時間は水量を減らす様に話がある。 |
| 13 | 1962 | 7月31日 |     |                  |  | 小学生が用水で水泳。   |
| 14 | 1962 | 8月8日  |     |                  |  | 学校指定の水泳場が上原地区迄に8箇所ある。  |
| 15 | 1963 | 7月27日 |     |                  | 水泳時にて四郷の県道迄行って来た。花本の放水門を少し開けてほしいと頼まれたがそれは私としてはいけないと申上げた。子供が可愛そうだからといはれた。4.00m/s請求しているが時々減の時がある。  | 3区の婦人会の人が2名水泳の件で御見えになった。   |
| 16 | 1963 | 7月28日 |     |                  | 今日も水泳時に上原地区迄一周して来た。別に異状なし。各所に七箇所水泳をしていた。   |  |
| 17 | 1963 | 7月30日 |     |                  | 発電所に行きいつもの様に取入口や浮沈表を見て水量が減になるので流水が少ないからだと申された。午後水泳時に上原地区迄一周して来た。   |  |
| 18 | 1963 | 8月2日  |     |                  | 明治用水が水量が少ない由にて配水課長の命令にて下記の通りとす。又水泳時に巡回して上原地区迄一周して来た。   |  |
| 19 | 1963 | 8月3日  |     |                  | 大脇氏を通じ課長の命令にて4.00m/sとす。本日水泳時に四郷迄一周して来た。又、水約りが前の放水門の所に来てはたまたま放水門をなぶるので注意した。   |  |
| 20 | 1963 | 8月26日 |     |                  | 子供の水泳時に柳川迄行き水泳の状況を見て来た。中学か高校の生徒らしく草を取っては向岸に投げて居るので用水の中に入れてはいけない様にして呉れと頼んで見て廻った。<br>土木課長殿に電話をして空洞場所の工合を報告す。   |  |
| 21 | 1965 | 7月25日 |     |                  | 地元の婦人会が水泳に関して堤防の草かりをするから用水に入れられない様に監視をした。  | 東用水の治水永田氏連絡あり。水量が多いとの事にて15時より2.00mに減水す。                          |
| 22 | 1965 | 8月1日  |     |                  | 水泳時に上原地区迄用水視察異状なし。神谷氏より連絡あり水量増にする様申されたが此れよりは入らないと申上げた。池の附近の左岸で13センチ位である。   | 6時30分4.50mとしては水量及水位底い様に思ったから訂正して載く。                              |
| 23 | 1965 | 8月15日 |     |                  | 上原地区迄用水視察。異状なし。水泳時にて大勢子供が6箇所にて水泳をして居った。  |  |
| 24 | 1965 | 9月17日 |     |                  | 各放水門の開いてあるかを点検に行く。魚を捕る子供がよく閉じる事あり。其の為点検す。<br>台風24号接近に伴ひ戸締りを厳重にす。   |  |
| 25 | 1966 | 7月24日 | 32° | P無し<br>A南風弱      | 水泳が今日より始まり状況を見に行った。越戸地区2箇所、花本1箇所、四郷天道1箇所、四郷1箇所、四郷下古屋1箇所、上原1箇所計7箇所に始まっていた小石を投込むのを注意した。<br>青木小学校の暑中休暇にて水泳が始まるから水位を少し下げてほしいとの事にて11時より4.00mとす。宿直者にも連絡。治水神谷氏にも連絡不在にて話出来ず。 |  |
| 26 | 1966 | 7月25日 | 34° | P南西<br>風弱A<br>無し | 前の放水門の水のもうりが多くなったから間にこんだ。<br>子供の水泳に関して水量を少くすることはいけないとの事にてその由を婦人会長に御伝へした。内藤係長から連絡ありたり。  |  |
| 27 | 1966 | 7月27日 | 34° | 南風弱              | 水量が多いのに各所にて水泳があったから監視の人に注意を呼び掛けた。別に異状なくほっとした。  |  |
| 28 | 1966 | 7月30日 | 34° | 西南風弱             | 暑い最中に水泳場所を巡回す別に異状なし。<br>今朝水量が下かって居たから問合せて見たらダムの水位が下がったから其の内に高くなって来るとの事である。   |  |
| 29 | 1966 | 8月7日  | 35° | P南風弱A無し          | 暑い最中に水泳場を四郷迄一巡して帰る子供が陸に居る時は小竹を其れを持っていたづらをするから注意をした。<br>7時に宿直者に水量を報告す。  |  |
| 30 | 1966 | 8月13日 | 32° | 西南風弱             | 水泳当番にて発電所の水泳場の監視に行く。<br>配水課古沢氏に水量報告す。  |  |

1～5: 978『昭和35年5月通水日記』, 6～11: 994『昭和36年度通水日記』, 12～14: 995『昭和37年度通水日記』, 15～20: 216『昭和38年度通水日記』, 21～24: 310『昭和40年度通水日記』, 25～30: 507『昭和41年度通水日記』(豊田土地改良区蔵)。

んだ。霊願寺のトンネルが30～40メートルあり、これを通り抜けることが出来ると一人前だった。場所にもよるが矢作川よりも流れが速く、子どもは矢作川へ、大きい子は枝下用水という感じだったという<sup>3)</sup>。

また、用水路で泳ぐのではなく、枝下用水の水を引き込んで利用したプールで泳いだ例も見つかった。『創立100周年記念誌 若園小』の中で昭和27年度卒業生は「6年生のとき、25メートル4コースのプールが出来ました。水は駒場用水から農業用水を汲み揚げたもので、潜っても下のコース線がわからないほどでした」と語っている。また、昭和30年度卒業生は「夏の楽しみは何と言ってもプールです。夏休み中には毎日何時間も真っ黒になって泳ぎ回り、一夏に背中皮が何度も剥けました。当時はプールの水を西の用水から汲み上げており、モーターのベルトがよくスリップしました。先生に頼まれてベルトに固形グリスを擦り付けるのがスリル満点の楽しみでした。細かい砂も混じっていてプールから上がるとみんな目を真っ赤にしていたものです」と回想している。駒場用水は下流で補助用水であった。当時は用水路がコンクリート張りではなく素掘りだったので、汲み上げるときに砂や土が入ってしまったのだろうか。

豊田市竹元町で行った「枝下用水の話聞く会」<sup>4)</sup>でも、「鹿が音分水の水が竹村小学校のとこをすぐに通っていた。そこを穴開けて小学校のプールへ入れて。枝下用水の水をプールにいれた」と昭和25年頃の記憶として話している。この2つの例からは、水に苦勞した土地でも子どもたちのプールに用水を使っていたことがわかる。

昭和31(1956)年に挙母市(現豊田市)上水道が開通し、それ以降は各地区で給水が始まり、用水の水を使う必要がなくなった。昭和35年には児ノ口公園(資1)に、昭和38年には毘森公園にプールができた(写真1)。

『豊田市史 四巻(現代)』には、「昭和40年代には豊

田市内小中学校のほとんどが体育館とプールをもって」と書かれており、この頃から学校が枝下用水を水泳場として使うことはなくなったのである。

## 用水で洗う

聞き取りの中で、枝下用水はこれまで記してきた遊び場としてだけでなく、用水を洗濯や洗いに利用していたという話も聞くことができた。

豊田市越戸町在住のKさん(昭和11年生まれ・幹線)によると、Kさん宅は矢作川に近いのでそこで洗濯をしていた。枝下用水に面している家では、洗濯をしたりサツマイモや白菜などを洗ったりしていたという。

幹線以外の方の話も聞くこともできた。豊田市若林東町在住のOさん(昭和22年生まれ・中用水)は、昭和34(1959)年の伊勢湾台風で用水が荒れる前までは、中用水と高根支線の分岐点で母親が洗濯をしていたことを覚えていた。この辺りは家が3軒しかなかったが、3軒とも洗濯をしていた。吉原補助用水では、季節に関係なくシジミや大きな貝が採れた。砂より多い程であった。しかし、農業ホリドールを使うようになってから、一気に川が白くなり、魚も死んでしまったという。

豊田市大林町在住のIさん(昭和10年生まれ・東用水)は、大風補助用水でオムツを洗っているところを見たことがあったという。

用水での洗濯等は、用水に面した家や用水に近い家が利用していたと思われる。しかし、昭和30年代に水道給水が開通されたこと、昭和40年代に矢作川同様、水が白濁してしまったこと、また、この頃電気洗濯機が普及したことなどから、用水での洗濯風景は見られなくなったと考えられる。パイプライン化されていない幹線用水路への階段(写真2)だけが、当時の面影を残している。



資1 『愛知新聞』昭和35年8月9日付  
児ノ口プール完成記事。



写真1 毘森公園プール写真(豊田市役所蔵)。



写真2 洗濯していたころの面影が残る  
枝下用水(幹線)(2012年10月  
11日撮影)。



## 用水に落ちる

子どもにとっても大人にとっても身近な用水であったが、悲しい事故もあることがわかった。昭和40（1965）年度の『用水日記』には「土木課長より報せあり 自動車が用水に落ちたから断水して上原の放水門を開く様にとの事にて早速放水門を開く」といった記事があった。事故防止策として、昭和49年頃には階段周辺に防護柵であるフェンス取り付け工事が行われた（写真3）。しかし、昭和54（1979）年6月2日付の毎日新聞によると、「枝下用水の取入口などでフェンスが切れているなど、改良を必要とする個所が数地点あった」、「国、県、市費の補助で毎年、危険個所にガードフェンスを増強しているが、絶対安全というにはなかなか」などと書かれており、安全策が追いつかないことがわかる。実際に昭和50年代にも各新聞で幼児や老人が誤って用水に落ちるという記事もいくつも見つかった。

平成16年には幹線以外の支線はパイプライン化され、さらなる事故防止につながった。現在では幹線の周りには有刺鉄線が張られ、用水に入らないよう看板も取り付けられている（写真4）。

今では枝下用水で子供たちが楽しく泳いだり、洗濯したりすることはなくなった。しかし枝下用水に面した家の方からは、「夏はこの用水のおかげで涼しい風がくる」と聞いた。時代は変わっても、用水が日々の暮らしの中にあり、時に癒しとなっている。枝下用水が生活に溶け込んでいることは、今も昔も変わらないようにも感じられた。

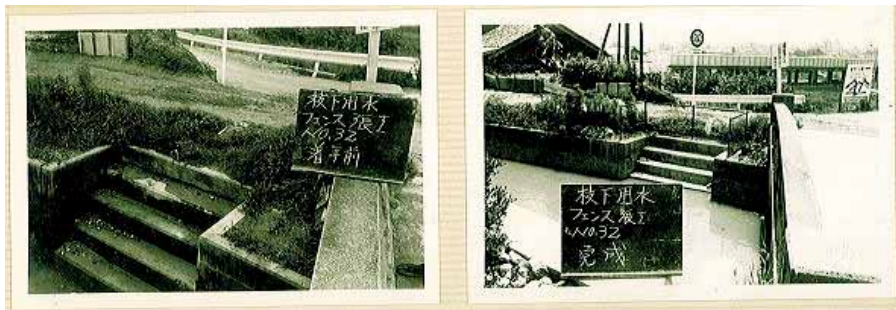


写真3 フェンス取り付け工事完成前後（豊田土地改良区蔵）。

## 引用文献

- 豊田市教育委員会 豊田市史編さん専門委員会編（1977）  
豊田市史四巻（現代）：724，豊田市。  
若園小学校創立100周年記念誌部会編（2000）創立100周年記念誌 若園小：101・107，若園小学校創立100周年記念事業実行委員会。

## 注

- 1) 2012年10月15日の聞き取りによる。
- 2) 2012年9月29日の聞き取りによる。
- 3) 2012年10月10日の聞き取りによる。
- 4) 2010年4月27日に竹下区民会館（豊田市竹元町）でおこなった「第1回枝下用水の話を書く会」。

枝下用水120年史編集委員会：  
〒470-0331 豊田市平戸橋町波岩83-1  
豊田土地改良区水源管理事務所内



写真4 看板（2012年8月27日撮影）。